

岡山県自然保護センター生物相調査の概要

調査の概要

岡山県自然保護センターは、自然保護思想の普及および調査研究を目的として設立された。今後長期間開発の可能性が少ない場所である。こうした場所の生物相が今後どのように変化していくのかを明らかにするため、現時点での生物相を把握するとともに、自然保護センター内の生き物に関する情報を充実させることを目的に生物相調査を行った。

調査は項目によって1年間だけのものと2年間にわたるものに分け、平成5年度から6年度にかけて実施した。調査結果はそれぞれの先生方に調査終了後とりまとめでいただき、報告書と主な標本を提出していただいた。

本報告書は、調査団からの報告を受けて調査報告書としてまとめ、センターの生物相の実態を明らかにしたものである。

なお、本調査団団長の井木張二先生は本調査報告書をまとめられたあと、急に容態が悪化し、平成7年4月30日に他界された。謹んでご冥福お祈り申し上げます。

調査団と担当

調査は各分野の専門家で構成する「岡山県自然

保護センター生物相調査団」(表1)に委託して実施した。なお、一部の調査項目はセンターの自然保護研究員が担当した。

また、調査項目と担当は次のとおりである。

【動物】

| | |
|----------------|--------------|
| クモ類 | 野嶋宏一先生 |
| 直翅類 | 青野孝昭・近藤光宏両先生 |
| トンボ類 | センター研究員(森) |
| カメムシ類 | 青野孝昭・近藤光宏両先生 |
| 蛾類 | 伊藤國彦先生 |
| チョウ類 | センター研究員(井上) |
| 甲虫類 | 青野孝昭・近藤光宏両先生 |
| 水生動物 (魚類含む) | 湯浅卓雄先生 |
| 両生類 | センター研究員(森) |
| 爬虫類 | センター研究員(井上) |
| 鳥類 | センター研究員(井上) |
| 哺乳類 | センター研究員(森) |

【植物】

| | |
|------|----------------|
| 淡水藻類 | 大谷修司先生 |
| 変形菌類 | 高橋和成先生 |
| 菌類 | 竹内隆人先生 |
| コケ類 | 井木張二先生 |
| シダ植物 | 小島裕子先生 |
| 種子植物 | センター研究員(楠原・西本) |

表1. 岡山県自然保護センター生物相調査団名簿

| 氏名 | 所属等 | 専門分野 | 備考 |
|------|---------------------|----------|----|
| 青野孝昭 | 倉敷市立自然史博物館館長 | 昆虫 | |
| 井木張二 | 日本蘚苔類学会理事 | コケ植物 | 団長 |
| 伊藤國彦 | 岡山県立大学短期大学部長 | 昆虫 | |
| 大谷修司 | 島根大学助教授 | 淡水藻類 | |
| 小島裕子 | 岡山県植物研究会理事 | 植物 | |
| 近藤光宏 | 倉敷市立中洲小学校校長 | 昆虫 | |
| 竹内隆人 | 岡山県林業試験場研究員 | 菌類 | |
| 高橋和成 | 県立岡山朝日高校教諭(生物) | 変形菌類 | |
| 野嶋宏一 | (株)ウエスコ環境調査課主任 | 昆虫 | |
| 湯浅卓雄 | (協)岡山市環境整備協会水質検査室室長 | 魚類, 淡水動物 | |

(アイオエオ順, 敬称略。役職は委嘱当時)

調査地の概要

1) 地理的位置

センターは岡山県の中部、やや東部に位置している（図1）。岡山県を流れる3大河川のうち吉井川の水系に属する。

2) 地形・地質および気候

敷地は約100ヘクタールあり、中心にある約8ヘクタールの大きな池を中心として、すりばち状の地形をしている。敷地は稜線まで広がり、1つの集水域をすべて含んでいる。母岩は花崗岩である（光野, 1990）。

気候は1992年一年間記録では、年平均気温が13.4℃、年降水量が1220mmで（岡山県自然保護センター, 1994）、温暖で乾燥した瀬戸内海気候区に

属している。

3) 植生の概要

植生はセンターの工事にかかる前の1987年に撮影された航空写真をもとに作成した現存植生図（西本, 1994）によると、斜面のほとんどがアカマツ林で、谷部は水田耕作地、水田の周辺はアカマツに混じってコナラやアベマキが見られる針葉樹と広葉樹の混交林となっている。一部には放棄された水田跡地があり、放棄されてからかなりの年数経たした所はノイバラやクズが覆ったクズ群落が発達し、放棄後間もないところはセイタカアワダチソウが優占する群落が発達している。ヒノキやスギ植林地も数ヶ所あり、わずかであるが竹林もみられる。

こういった植生からみると、センターの敷地は

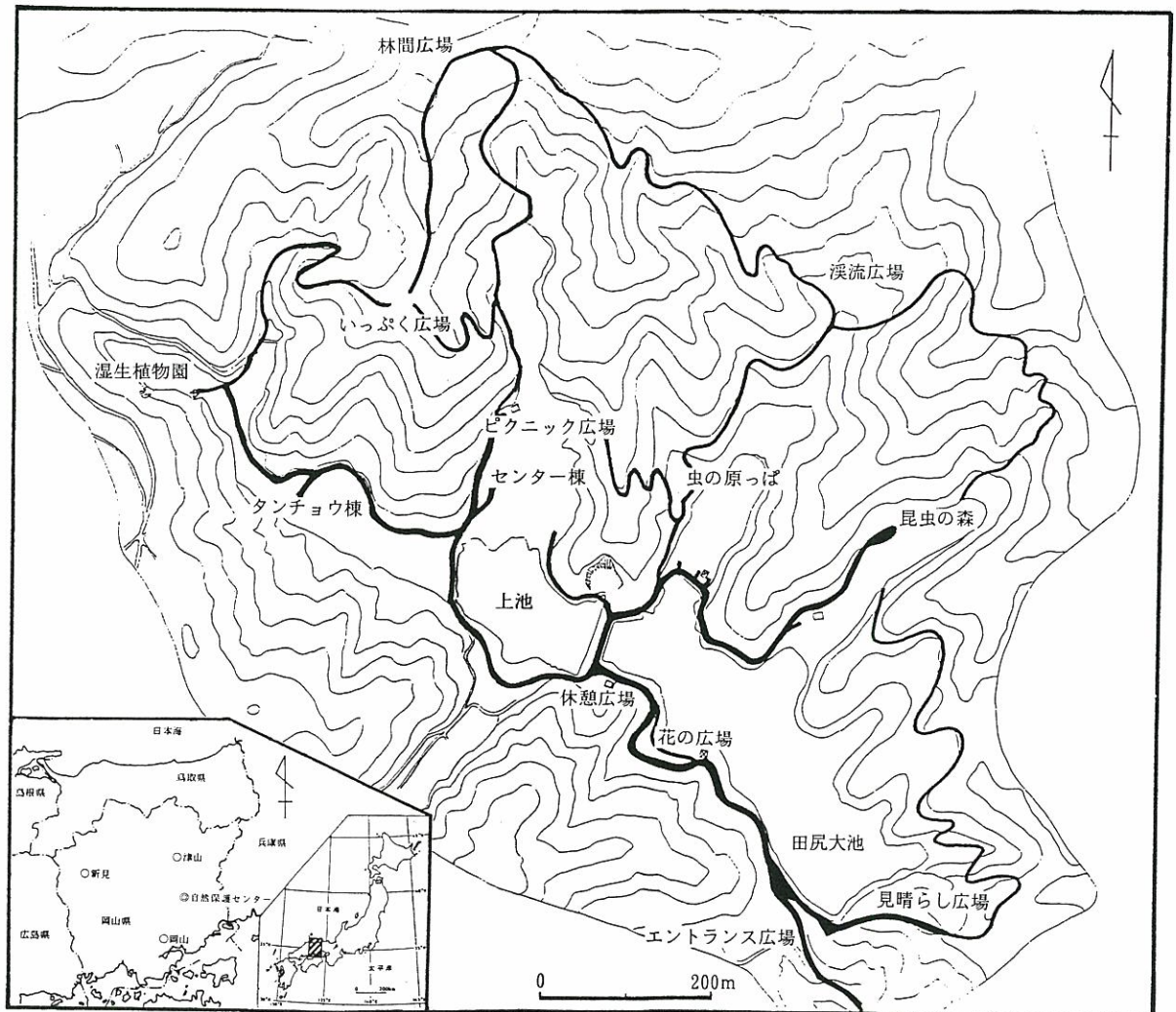


図1. 生物相調査の対象となった地域。田尻大池を囲んだ地域が岡山県自然保護センターの敷地である。

これまで人間によって利用されて維持されてきた、いわゆる里山の典型的なところであり、センターができるまでは、この土地を共有して管理する周辺の集落の人たちの限られた人間だけがここに入り、こうした人たちが自然と関わり合いながら生活していた所であったと考えられる。

調査結果

調査結果は、それぞれの調査項目ごとにまとめている。ここではそれらの調査報告書から、出現した生物の種数を取りだし、センターの生物の種類数について整理した。

| 【動物】 | 科 | 種 |
|-------|----|------|
| クモ類 | 20 | 91 |
| 直翅類他 | 9 | 25 |
| トンボ類 | 9 | 53 |
| カメムシ類 | 25 | 67 |
| 蛾類 | 26 | 330 |
| チョウ類 | 9 | 59 |
| 甲虫類 | 66 | 402 |
| 水生動物 | | |
| 魚類 | 10 | 76 |
| 扁形動物 | 1 | |
| 軟体動物 | 9 | |
| 環形動物 | 1 | |
| 節足動物 | 55 | |
| 両生類 | 6 | 9 |
| 爬虫類 | 5 | 9 |
| 鳥類 | 29 | 87 |
| 哺乳類 | 10 | 17 |
| 合 計 | | 1225 |

| 【植物】 | 科 | 種 |
|----------|-----|------|
| 淡水藻類 | | 285 |
| 変形菌類 | | 56 |
| きのこ類 | | 93 |
| コケ類 (蘚類) | 24 | 61 |
| シダ植物 | 18 | 47 |
| 種子植物 | 113 | 678 |
| 合 計 | | 1220 |

この結果、センターには動物が1225種、植物が1220種生息、生育していることが確認された。

それぞれの調査結果は、以下に項目ごとにまとめてある。

引用文献

- 光野千春, 1990. 田尻大池周辺の地質. 岡山県佐伯町田尻大池周辺の自然, 89-92. 岡山県.
- 西本 孝, 1994. 岡山県自然保護センターの植生概要. 岡山県自然保護センター研究報告(2) : 1-12.
- 岡山県自然保護センター, 1994. 岡山県自然保護センター気象観測資料〔1991年12月～1992年12月〕. 岡山県自然保護センター研究報告(1) : 53-67.

